

NOW IS.

宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実
に
立ち向かう。

2019.3.11

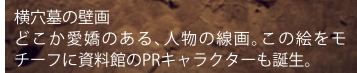
Vol.
35
March, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

岩田華怜
in
山元町

住民を笑顔にし、
交流を深めるイベントを。

宮城県仙台市出身の女優・岩田華怜さんは、2017年からみやぎ復興情報ポータルサイトで「いわたかれん復興フォト」と題してブログを連載しています。実際に沿岸部を巡り、気になった場所や話題のスポットを岩田さん自身が撮影。写真にまつわるエピソードを執筆したブログの更新は、2019年1月で16回に達しました。ブログの取材を通して、私自身、宮城のいいものやおもしろい場所をたくさん発見しました。宮城にまだ来たことのない人たちにも



響く記事になっていたらしいな
 と思っています」と岩田さんは
 2年間を振り返ります。この短
 期間で新しい施設やお店もたく
 さんできて、どんどん復興して
 きているなと感じています。頑
 張って震災を乗り越えた人たち
 にもたくさん出会いました。で

もそんな人たちも、見えないところでは今も必死に頑張っている。そういう側面もあわせて発信できたらいいなと思うんです」。

この日の舞台は山元町。プロダクの取材も兼ねて、まちのあちこちを巡ります。最初に訪れたのは、山元町歴史民俗資料館。山元町で発見された約1400年前の「合戦原遺跡壁画」が移設

注目が集まり、資料館への移設が決まりました。「津波で家を

失った人が住宅を再建するため
の用地でしたので、工事を遅ら
せてはいけません。一方で貴重
な歴史資料を保管するために、
全国の考古学者が力を合わせて
移設に協力してくれたんです」と
山田さん。「こんな貴重なもの
が土の下に眠っていたなんて驚

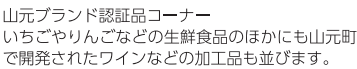
公開されています。「合戦原遺跡壁画」は、沿岸部の住民が集団移転するための用地を発掘調査している時に発見されました。「土砂に埋まり山林となっていた斜

きました」と岩田さんは目を丸くします。「今後もたくさんの埋葬品を公開していく予定です」。山田さんは目を輝かせて話してくれました。

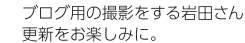
震災は続いている。
そのことを伝えたい。

たのがこの壁画でした。そう話すのは学芸員の山田隆博さん。何を隠そう、この壁画の第一発見者です。「入り口部分の調査をしていた時に、奥の壁に」人の顔が見えたんです。最初は子どもの落書きかと思いました。発掘を進めると、人間や鳥、植物などを描いたと思われる「線刻壁画」を多数発見。横六墓の壁画としては、東北有数の規模だと

次に訪れたのは「やまもと夢いちごの郷」。2019年2月にオープンしたばかり。ちょうどいちご狩りの季節だったこともあって、来場者はオープンからの3日間で3万人を超えました。ずらりと並ぶいちごを見て「おいしそう」と岩田さん。「こっちのワインは女の子でも飲みますそう。このりんごは市場にあまり出回らないでしゅうっ。食べて



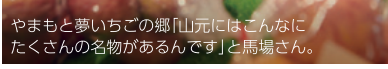
山元ブランド認証品紹介コーナー
いちごやりんごなどの生鮮食品のほかにも山元町で開発されたワインなどの加工品も並びます。



A woman with dark hair, wearing a tan jacket, is crouching and taking a photograph with a black DSLR camera. She is positioned in front of a market stall that has various items on display, including a yellow bag and a small sign with a cartoon character. The background is slightly blurred, showing other people and the indoor setting of the market.

たいのはもちろんですが、山元のお店や観光スポット、震災関連の施設などにも興味を持ってもらえる場になりたいですね」。

実は山元町は、岩田さんが一番最初のブログで取材に訪れた



岩田 華怜
いわた かれん

1998年5月13日宮城県仙台市出身。2011年2月にAKB48に加入し、チャリティソング「花は咲く」に参加するなど、被災地支援の活動に注力。2016年にAKB48卒業。女優として数多くの舞台に出演する。2019年にみやぎ絆大使に就任。



ず、力強く未来を見据えています。

 沼田佐和子

山元DAY OUT

山元で休日

YAMAMOTO

コダナリエ

心の復興を願い「訪れた人を笑顔に」という想いが込められたイベント。詳しくはNOW IS.10号(2017年2月号)をご覧ください。

コダナリエ

ICHIGO WORLD



山元町歴史民俗資料館

カフェ地球村

ふるさとおもたか館
(山元町防災拠点・坂元地域交流センター)

やまもと夢いちごの郷

山元南IC

常磐自動車道

旧中浜小学校(震災遺構)

磯崎山公園

磯崎山公園
伊達政宗公が生まれて初めて海を見た場所が、この磯崎山と言われています。

ほっきめし

宮城県沿岸南部の郷土料理。冬から春が旬のホッキ貝はふっくらとやわらかいです。

ほっきめし



宮城県の最南東に位置する山元町。西側には阿武隈山地が広がり、東側は太平洋に面しています。温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、いちごやりんご、イチジク等のフルーツや新鮮な海産物が特産品です。

Support Power

PROFILE

山元町 産業振興課 交流拠点整備推進班

たかはし りょうた

高橋 良太 さん

神奈川県鎌倉市から山元町に派遣



直売所に程近い戸花山からの景観。



町内の生産者・事業者が販売する加工品。直売所でも購入することができます。



「鎌倉市の職員になった時、すでに山元町への支援が行われていて、いつか自分も復興業務に携わりたいと思っていました」と話す高橋さんは、2017年4月、神奈川県鎌倉市から山元町へ派遣職員としてやってきました。鎌倉市では、東日本大震災発生後の2カ月後から山元町への職員派遣が行われています。

産業振興課に配属されて1年目は、6次産業化の担当に。生産者向けの研修会の開催、6次産業化に取り組む事業者の情報をまとめた「6次産業化MAP」を作成するなどの業務に携わります。2年目は、今年2月にグランドオープンした山元町農水産物直売所ややまもと夢いちごの郷」を運営する株式会社の設立業務を担当することに。直売所を運営する「株式会社やまもと地域

振興公社」は、山元町のほか、町民などが株主となり、官民が協同して地域振興を推進する会社です。「業務は大変でしたが、上司や同僚がフォローしてくれたり、生産者の方などと情報交換を行ったりして、職員も町民も一体となって進んでいると感じました。鎌倉市では、個人で完結する業務が多かったため、同じ目標に向かって多くの方と関りながら仕事を行うことにやりがいを感じますし、支えてもらったことに感謝しています」。

「やまもと夢いちごの郷」のオープン初日は約14,000人が訪れ、現在も多くのお客さんでにぎわっています。「やまもと夢いちごの郷は物を売るだけではなく、情報発信の機能を備える施設です。山元町は特産品や加工品、観光農園、住みやすい環境など魅力が多い町なので、今後はその魅力や震災の記憶を繋ぎ合わせて発信していく役割を会社や町が担っていければ良いなと思っています」と高橋さんは話します。

「交流人口の拡大、地域活性化によって、町民の方々が豊かになることが最大の目標です。そこからまた町の新たな魅力が生まれてくれば嬉しいですね。任期が満了しても、交流人口のひとりとして、山元町に貢献したいと思っています」。

info/area

【エリア情報】復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

旬のいちご狩りを楽しんで！

県内有数の生産量を誇る山元町のいちご。町内5カ所の農園でいちご狩り体験ができます。ぜひ、手塩にかけて育てた愛情たっぷりの摘みたていちごをご堪能ください。



- 山元いちご農園
☎ 0223-37-4356
住所：山元町山寺字稲実60
- ICHIGO WORLD
☎ 080-8776-8307
住所：山元町山寺字桜堤47(※予約優先・前売制)
- やまもと夢いちごの郷
☎ 0223-38-1888
住所：山元町坂元字荒井183-1(※紹介・受付のみ)

紹介農園(山元いちご農園、ICHIGO WORLD、半澤いちご農園、菅野いちご園、燦燦園)

詳しくは山元町HPでご覧いただけます。
<http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/kankou/4460.html>

今月のガイド

株式会社やまもと
地域振興公社 取締役支配人

馬場 健保さん

「いちごやりんご、ホッキ貝はもちろんです。が、農産物ではニンニクも人気なんです。そう話すのは、やまもと夢いちごの郷」の支配人、馬場さんです。山元町出身の馬場さんは、長年勤めていた会社を早期退職。山元町のために何かしたいと考えていた時、運営の募集を知り、現在に至ります。

店内には飲食スペースも併設。「ほっきめしや牡蠣めしのお弁当、地元飲食店さんの焼き菓子、旬のフルーツを使ったソフトサンデーもおすすめです」。

「ここは直売だけではなく、山元町のPRなどの情報発信基地としての機能も担っています。今後はイベントを開催するなど、山元町の新たなランドマークにしていきたいです」。

絆を結ぶ

2019年1月から「みやぎ絆大使」に就任した岩田華怜さん。「『絆』っていうのがとてもいいですね。みんなと絆を結んでいく役割が私なんだって」。震災後、東北各地を何百回と訪問してきた岩田さん。「絆大使として、今まで出会った東北の人にももう一回会いに行きたい。あの時話した夢や想いを、今どう思っているか話したいですね」。東北が変わり続けた8年。あの日から変わらない絆もあります。



宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,565人 | 行方不明者数 1,221人 | 2019年1月31日現在宮城県危機対策課調べ

本当の心から出た言葉を 発信することが寄り添った 放送だと思います。

災害FMとしての活動が
放送人としての自分をつくった。

伊藤さんは、生まれも育ちも山元町。高校卒業後はニューヨークで暮らし、大学でメンタルヘルスと心理学を学び、2011年1月に帰国してからは、実家で暮らしていました。

震災後、何かしないといけないという気持ちに掻き立てられた伊藤さんは、町役場に避難してくる人々の手伝いを始めました。辛い状況にある人にも数多く出会ったと言います。「家族を失い獣のようなうめき声をあげている人、感情がなくなったような目で、母さんを引き上げられなかったよ、と話す人。わたしはそういう人に何もできなくて、ただ側にいるだけでした。メンタルヘルスの勉強なんて役に立たなかった」。

日常とかけ離れた自分の故郷。そんな故郷の力になりたいという気持ちだけで臨時災害FM放送



(上) 現在は、「つばめの杜 ひだまりホール」でりんごラジオの足跡を展示。
(左) 町役場の敷地内にあったりんごラジオのスタジオの様子。
(右) 最終放送日にはたくさんの市民がスタジオを訪れました。局長の高橋厚さんと一緒に。

局「りんごラジオ」に入局しました。当初はライフラインなどの情報を多言語で放送。徐々に被災者やボランティアの人のインタビューが増えるようになりました。「町で起きたことは小さなことでも発信していました。地元の小中学校の話題とか。みんなが仮設住宅に入るようになってからは、お茶っ会にも参加しました」。

ラジオの制作に関わった経験がなかった伊藤さん。「放送人としての核が生まれたと感じた取材があります。山元町外に避難しているみなし仮設に入居されていた方の交流会が仙台であったのですが、参加者のひとりが、話しているうちに声を上げて泣いてしまったんです。『山元に帰りたい、山元を離れたくなかった』って。すぐに、これは私が今伝えたいといけない現場だと思いました。行政の人にも、山元にいる人にも知ってほしいって。この交流会の音声はカットすることなく全部放送しました」。その後、取材した人が百

人、千人を越えても、常に反省ばかりだったと言います。「取材が心の傷になっていないかな、寄り添った取材ができたのかな、と考えていました。番組の都合で想いを切り取るのではなく、本当に心の底から出てきた言葉を放送したい。それが寄り添うということだと思って」。

伊藤さんは現在、仙台でフリーアナウンサーとして活動しています。「本当は、山元の現状を発信したいんですが、なかなか思うようにいかないのが現状です。私のように、被災地にいたいのにそうもいなくて、もどかしく思っている人って大勢いると思う。山元の人たちには、『今も心を寄せている人はたくさんいるよ』って伝えたいですね。人間って、自分のことを分かってほしい、認識してほしいって本能で感じるんだと思うんです。だから『被災地を忘れないで』という言葉が出る。わたしは、いつまでも、そういう本当の気持ちに、寄り添い続けたいと思います」。

臨時災害放送局とは？

災害時における災害情報・被災者支援情報・生活関連情報等を提供するために、自治体等が開設する臨時のFM放送局です。阪神・淡路大震災から始まり、東日本大震災では岩手8局、宮城12局、福島6局、茨城4局が開局しました。臨時災害放送局としては全て閉局しましたが、コミュニティFMとして継続している番組もあります。



PROFILE
フリーアナウンサー
いとう わかな
伊藤 若奈 さん

宮城県山元町出身。高校卒業後ニューヨークで7年ほど語学学校と大学に通い、震災当時は山元町に住んでいた。『りんごラジオ』閉局後は、楽天野球団のラジオパーソナリティを経て、今はフリーのアナウンサー、ディレクターとして活動中。

発行：2019年3月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。



INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 被災者転居支援センターと 住宅情報提供コールセンターの 統合について

4月から、東部被災者転居センター（石巻市）と住宅情報提供コールセンターは、県被災者転居支援センター（仙台市）に集約して業務を行います。

統合後も引き続き、応急仮設住宅の供与期間終了後に向けて、市町から提供される入居者情報などにに基づき戸別訪問による相談支援を行うほか、県内の物件情報や各世帯に応じた福祉サービスなどの紹介といった支援を行います。

利用希望の方は、被災当時お住まいの市町村の被災者支援担当課へご相談ください。

02 被災者生活再建支援制度（加算支援金）の 延長について

震災により住宅を失った世帯に対し、住宅の再建方法に応じて支給する被災者生活再建支援金（加算支援金）の申請期間が平成32年（2020年）4月10日まで延長されました。申請がお済でない方は、お早めにご申請ください。なお、申請書や必要な書類等については、震災当時お住まいだった市町の担当課までお問い合わせください。

■加算支援金の支給対象となる世帯		■支給額（万円）			
仙台市・石巻市・塩竈市・気仙沼市・名取市・多賀城市・東松島市・七ヶ浜町・女川町・南三陸町で被災し、基礎支援金を受給した方。 ※既に受給された方は申請できません。		再建方法	建設購入	修繕	賃借
■申請期限 加算支援金:2020年4月10日まで ※基礎支援金および対象市町以外の加算支援金の申請期間は終了しました。		支給額	200	100	50

※世帯人数が1人の場合、支給額は上記の4分の3となります。

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトは
こちらから！

<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで！

今月のブログピックアップ



いわたかれん
復興フォト
岩田 華怜



これまでの被災地訪問は90回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは「山元町」。旬のいちごのスイーツやオープンしたばかりの山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」などを紹介します。

語り部が 本当に 語りたいこと

宮城県には、東日本大震災での体験や得られた教訓を多くの人に伝えたいと、語り部活動が各市町で行われています。このブログでは、語り部が本当に語りたいことを紹介します。



南三陸町で「まちあるき語り部」として活動する、南三陸観光協会の及川和人さんにインタビューさせていただきました。「まちあるき語り部」は志津川地区など町内のコースを歩いてまわるプログラム。南三陸の今を歩いて感じること、語り部への想いを伺いました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信！復興みやぎ



SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS.メールマガジン

NOW IS.の発行日（土日・祝日のときは翌平日）にメールでお知らせします。

[NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録！

宮城の 「今」を発信



震災の伝承や
防災・減災に取り組む
活動をご紹介します。

震災伝承講座「3.11『伝える／備える』次世代塾」

防災啓発の担い手育て、世界へ

あの日、何が起きたのか、明日につながる教訓は何か。河北新報社が運営事務局を務める「3.11『伝える／備える』次世代塾」は、当事者の証言をベースに震災の実相を学ぶ年15回の講座。2017年4月に開講し、毎年100人を超える大学生、若手社会人が受講しています。被災や支援の体験などを聞く座学だけでなく、年3回は被災地や仮設住宅などの現地視察も行っています。震災の風化を防ぎながら、震災伝承と防災啓発の担い手人材を育成し、全国・世界へと継続的に送り出していきます。



2019.3.11



ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



フリーアナウンサー
伊藤若奈

あなたが忘れないでと言うなら、
わたしは忘れない。

山元町臨時災害FM「りんごラジオ」は、2017年3月31日に惜しまれながら、閉局しました。

伊藤若奈さんが「りんごラジオ」にボランティアとして入局したのは、2011年3月24日。開局の3日後でした。以来、閉局の日まで6年間、ディレクター、アナウンサーとして携わりました。「心に寄り添う発信」に徹底的にこだわった「りんごラジオ」では、街の人のインタビューを積極的に放送。伊藤さんが担当したインタビューはのべ3000人にもなるそうです。

「どのインタビューも印象に残っています。すごく学ばせてもらった。感謝の想いでいっぱいです」。数多くの人に出会い、話した伊藤さんには、ひとつの強い考えがあります。

「心の復興なんて、本当はないと思う。あんな辛いことを経験したら、前のようにには戻れないですよ。だったら、だからこそ、わたしはいつまでも山元の人たちのそばに居続けたいんです。山元にいる人たちが『私たちのように被災した人があるのを忘れないでほしい』と言うのであれば、私は絶対忘れない」。